

天声人語

2人のお姫様の化粧は、どちらも美しい。といつても実在の女性ではない。古来、春の野山を彩る女神を佐保姫といい、秋の草木を染め抜く女神を竜田姫と呼ぶ。いまふうの言葉で言うなら春のパレット、秋のパレットである▼春は桜、秋なら紅葉。どちらが心にしみいるか、と先頃の本紙別刷り「be」でアンケートをしていた。結果は桜派が51%、紅葉派は49%。がつぶり四つと相撲に例えては、姫にそぐわないか。ともあれ竜田姫は、師走に入つても南への旅の途次にある▼季節の話を書くたびに、日本列島の長さを思う。北国は雪で白いのに、西日本の多くは力工デがまだ「紅葉日」を迎えていない。標本木全体が赤くなる日を、各地の気象台が観測している▼最低気温が8度以下になると色づき始める、5、6度で一気に進む。だが龍谷大学の増田啓子教授（環境気候学）によれば、紅葉日の全国平均はここ50年で18日も遅くなっている。温暖化の傾向が続けば、クリスマスや正月に紅葉狩りという変異も各地で生じかねない▼「紅葉は秋の季語ですが、だんだん怪しい状況になつていて」と増田教授は言う。そしてその紅葉の遅れは、異常気象や海面上昇といつた世界規模の脅威とひとつながりだ▼温暖化対策の国際会議COP21がパリで開かれている。73億人の地球。空や海の包容力につまでも甘えられるものではない。人類共通の難題を前に英知の見せどころであろう。師走に青い力工デの葉が、地球の危機を映している。

2015・12・3